

次回6月学習会の案内 第52回「資本論を読む会」

DAS KAPITAL

日時：6月26日（月曜日）午後6時30分 Zoomで開催

今回は「第20章 労働賃金の国民的差異」[岩波文庫(二)p90-98]



5月の「資本論を読む会」は、急用で出られなくなった方もいましたが、10名の参加で「第19章 出来高賃金」を行いました。レポーターはSakaオヤジ(勝手に命名しました。本人からこの名はイヤだと希望があれば改名しますが…)

討論テーマは

「出来高賃金」ですから、特に難解なところはなかったように思いますが、レポートも勘所を押さえて要領よく提起され、色々なテーマに話が及びました。同一労働同一賃金、人事評価制度、配偶者控除問題などの実態や今にも通じる「職場の人手不足」など、結構楽しい議論になりました。次回は「第20章 労働賃金の国民的差異」(レポーターはTakちゃん)ですが、残り時間で別途提出されているレポート「生産的労働とは…」(2本あり)という議論もする予定です。

宿題ではありませんが、お奨め本として平地一郎著「これから10年の賃金闘争－仕事と賃金の関係を探る」(労大出版)の話が出ましたので紹介しておきます。

「読む会」終了後の懇親会では、JPなどの職場の話が出たり、亡くなった同志を悼む「戦士の碑」(支局ホームページ掲載)、「維新の動向と立憲民主党のこれから」などで話は尽きず、翌日に仕事のある方は三々五々解散したのですが、今回はいつもより少し遅くなったように思います(終了時間はよく覚えていません)。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから

Sakaオヤジ

第19章 出来高賃金

【P75～78 8行】

労働時間そのものの価格は、結局は、日労働の価値＝労働力の日価値という方程式によって規定されている。ゆえに出来高賃金は時間賃金の一転化形態にすぎない。

【P78後7行～80 6行】

出来高価格が完全に支払われるためには、製品は平均的な品質を備えねばならない。労働者が平均的作業能力を持たず、一定の最小限の一日仕事を供給しえないならば、彼は解雇される。

【P80後3行～P83 2行】

個々の労働者の個別的賃金は、彼によって個別的に供給される剰余価値が対応するのであるから、労働賃金と剰余価値との比率は変化しない。しかし、労働者の個性、他面では労働者間の競争を発展させる傾向がある。それゆえ出来高賃金は、個別的労働賃金を平均水準以上に高めるとともに、この水準そのものを低下させる。

【P84～P87 10行】

労働の生産性の変動とともに、同じ生産物量が表示する労働時間も変動する。

同じ時間で生産される個数が増加する＝一個を生産するための労働時間が減少するのと同じ割合で、出来高賃金が引き下げられる。出来高賃金の引き下げは、資本家と労働者の対立の火種となりうる。